様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

コース等名	学校・学級経営コース	記載責任者	阪根　健二

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教員養成の質保証

大学の機能別分化・機能強化が求められる中，本学は教員養成大学として高度専門職業人としての教員を養成することを目標としている。教員養成の質保証のため，専攻・コースではどのような取り組みを行うか，具体的な方策を示してほしい。

1．目標・計画

本専攻・コースでは、幅広い視点からの問題分析力・対応力・解決力を有し、学校や地域で指導力を発揮できる教員を養成することを目的とし、学校や地域において指導的役割を遂行できるリーダー教員として、優れた実践的対応力・展開力を有し、学校づくりの有力な一員となり得る教員の資質向上や、学校組織改善についての実践的な支援を行ってきた。そのため、教育の質の保証を重要課題と捉え、教職大学院のFDの取組を中心に、授業研究、授業評価などを継続的に行っている。
平成24年度の本コースの取組として、
①教育方法については、各授業科目間の内容の調整や、学生の授業負担等を考慮に入れ、さらなる授業の工夫・改善を行い、教職大学院における学修成果が確実なものとなるよう、指導の在り方を充実させていく。
②評価方法については、FDを中心とした授業評価を行い、あわせて外部評価委員会等の様々な意見を取り入れ、一層の充実を図る。
③2年次生の課題フィールド実習については、学校訪問等を通じて円滑な実施に努める。

2．点検・評価

本専攻・コースは、学校や地域において指導的役割を遂行できるリーダー教員を養成することを目途として、教員の資質向上や学校組織改善についての実践的な支援を行ってきた。平成24年度の本コースの成果として、①教育方法については、各授業科目間の内容の調整や、学生の授業負担等を考慮に入れ、さらなる授業の工夫・改善を行い、教職大学院における学修成果が確実なものとなるよう取り組んできた。②所属院生の授業評価は、いずれも4点台であり、授業改善において成果があった。あわせて外部評価委員会等の外部からの様々な意見を取り入れ、教育委員会や学校での課題解決に尽力した。③2年次生の課題フィールド実習については、学校訪問等を通じて、課題解決に努め、好評を得たと同時に、周辺学校・地域に波及効果があった。④専攻全体と協力しながら、コース学生の学習環境の整備に取り組んだ。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

①教職大学院として、授業、カリキュラムの評価・改善に取り組み、平成25年度以降のカリキュラム改編において、円滑に移行できるよう指導体制を強化する。
②学生の意見や要望を聞く機会を設け、それぞれのニーズに合った教育の提供を図っていく。
③教員が1名減のため、コース教員全員が協力して、協働して学生を指導する体制をとっていく。
④今後のコース改編の動きに鑑み、専攻全体と協力しながら、コース学生の学習環境の整備に取り組む。

2．点検・評価

本専攻・コースは、10名の定員において、例年充足しているが、平成25年度からのコース改編に伴い、専攻全体で、授業やカリキュラムの評価・改善に取り組みながら、円滑に移行できるよう指導体制を強化してきた。また、学生の意見や要望を聞く機会を設け、それぞれのニーズに合った教育の提供を図っていくために、アンケートなど実施し、その都度改善を図ってきた。平成24年度は、教員が1名減となったが、コース教員全員が協力して、学生を指導する体制をとってきた。その点での不備は生じておらず、所属院生の満足度は高かった。しかしながら、専攻全体での定員充足に至っておらす、さらなる改善が求められる。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

①各自の研究課題について研究を進め、研究成果を授業に反映できるよう努力する。
②学会発表など学会活動に積極的に参画するするとともに、学会誌、大学研究紀要等における論文発表に努める。
③科学研究費補助金等による研究を遂行するとともに、平成25年度に向けて積極的に応募する。

2. 点検・評価

コースの5名の教員が、各自の研究課題について研究を進め、その成果を授業に反映できるよう一層努力した。また、学会発表など学会活動に積極的に参画するとともに、学会誌、大学研究紀要等における論文発表を行った。特に、鈴鹿市との連携事業では大きな成果があった。あわせて、科学研究費補助金等による研究を遂行するとともに、平成24年度には新規の獲得も実現した。また、民間との共同研究では、平成24年度も外部資金を継続的に獲得している。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

①学内委員会に積極的に関与し、教育部会議にて議題・報告事項について的確に情報提供するとともに、大学運営の改善に関する意見の集約に努める。
②教職大学院におけるFDに積極的に関与し、授業改善はもとより、専攻・コース内の課題を探る。
③教職大学院全体の運営に協力するとともに、学生の状況や物的環境、財政状況等について情報の共有を図り、環境などに配慮した体制を強化する。
④コース会議等を通じてコースの円滑な運営を図るとともに、文書回覧については電子メール等を利用するなど、効率化・省資源化に努める。

2. 点検・評価

本専攻・コースは、現職教員対象のコースではあるが、修士課程や学部との連携を重視し、①学内委員会に積極的に関与し、教育部会議にて議題・報告事項について的確に情報提供するとともに、大学運営の改善に関する意見の集約に努めた。②教職大学院におけるFDに積極的に関与し、授業改善はもとより、専攻・コース内の課題を探り、新コースへの移行期に、定員の充足を一義とした。③教職大学院全体の運営に協力するとともに、学生の状況や物的環境、財政状況等について情報の共有を図り、環境などに配慮した体制を強化した。特にエコアクションに積極的に取り組んだ。その関係で、コース会議等を通じてコースの円滑な運営を図るとともに、文書回覧についても電子メール等を積極的に利用するなど、効率化・省資源化に努めた。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

1. 目標・計画

①学生の所属校及び教育委員会との連携を緊密にし、協働関係を構築する。
②教育委員会や学校からの講演・研修依頼等を積極的に引き受け、教職大学院のアピールの場としても活用する。また、公開講座などにおいて、広報に努める。
③修了生の学校や関係教育委員会との連携を重視し、フォローアップ体制をとる。
④学会等の役員や審議会等の委員を積極的に引き受け、社会貢献に努める。

2. 点検・評価

本専攻・コースは、各地の教育委員会や学校との関係が深く、その利点を生かした実践を行ってきた。①学生の所属校及び教育委員会との連携を緊密にし、協働関係を構築した。②教育委員会や学校からの講演・研修依頼等を積極的に引き受け、教職大学院のアピールの場としても活用した。また、公開講座などにおいて、広報に努め、静岡県でのサテライトでは、定員を大きく上回るなどの成果を得た。③修了生の学校や関係教育委員会との連携を重視し、フォローアップ体制をとっており、これまでの修了生が数多く昇進するなど、多くの成果がみられた。④学会等の役員や審議会等の委員を積極的に引き受け、社会貢献に努めた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）

本専攻・コースの特徴である各地の教育委員会や学校との連携や、学校組織改善の支援については、効果的に遂行できたものと思われる。これが、本コースが例年定員を充足している理由ではあるが、専攻全体には至っていないことから、平成25年度の改編にあわせて、専攻の定員充足という課題を克服していきたい。